

\*第46回大会の形式は変更になる可能性があります。

第45回 愛知県障害者技能競技大会 ワードプロセッサ

# 英文ワープロ競技

- ・ヘッダーに、番号（全角）と氏名（全角）を入力してください。
- ・別紙の文書を下記の指示によりバランスよく作成してください。
- ・必要に応じて、「作業確認」欄を活用してください。
- ・指示がない箇所は、問題どおりに体裁よく作成すること。

指示	指示内容	作業確認
書式設定	縦長形式、横書き書式 用紙サイズ：A4、余白（マージン）上下左右各20mm、とじしろ：0 フォント：Arial、サイズ：11ポイント、文字色：黒 1行の文字数：45字、1ページ行数：48行、行間を調整して体裁よく2枚におさめる ページ罫線：破線、0.75pt、黒色	
指示①	タイトルの部分は書体 Century Gothic、24ポイント、横倍角、左寄せ ワードアート：塗りつぶし-黒、文字1、輪郭-背景1、影（ぼかしなし）-アクセント1	
指示②	「ライブラリのピクチャフォルダ」から適切な画像を挿入、上下左右のトリミング、 枠線：濃い青、幅1pt	
指示③	キャプション左寄せ、MSゴシック、8ポイント、枠線（画像の枠線に幅を合わせる）、 上下左右の余白は1mm、すべての文字が読めること	
指示④	図形の挿入、黒色、0.75pt、一点鎖線	
指示⑤	各項目 HG 丸ゴシック M-PRO、18ポイント 文字の効果-影オフセット（右）、色-白、背景1、黒+25%	
指示⑥	適切な画像の挿入、文字の回り込み、四角形、ぼかし	
指示⑦	太字、14.5pt、左寄せ	
指示⑧	適切な画像の挿入、面取り、反射付き、白	
指示⑨	引用部分右寄せ Century Gothic、10ポイント、 図形-角丸四角形、枠線青、塗りつぶし-アクア、アクセント5、白+基本色80%	

注意 問題文中の①②③④⑤⑥⑦⑧⑨は指示箇所を示すものであり、作成においては入力しない。

# ① Ghibli Park

Ghibli Park is a theme park in Nagakute, Aichi, Japan. It opened on 1 November 2022 and features attractions based on several of the movies produced by Studio Ghibli. First announced in 2017, with construction starting in 2020, the park is located within the grounds of the Expo 2005 Aichi Commemorative Park.

It is mainly accessible by the Aichikyūhaku-kinen-kōen Station, which is a railway station at the park entrance. This is the primary place of access as there is no private parking lot for the park. The park will cover 7.1 ha (18 acres) when it is fully complete.



Location	Nagakute, Aichi, Japan
Opened	1 November 2022
Theme	Studio Ghibli

④

## ⑤ History

The replica house from *My Neighbor Totoro*

Plans for the theme park were first announced in 2017 by Toshio Suzuki, the producer of several of Studio Ghibli's movies, saying the attraction was planned to open in 2020. According to the original announcement, the park would focus entirely on the world of *My Neighbor Totoro*. The location chosen was the Aichi's Expo Park, which hosted the World Expo 2005, and already contains a replica of the house of the main characters of *My Neighbor Totoro*. The area, also known as Moricoro Park, was previously chosen to host two exhibitions of the studio, the first in 2008 and the second in 2015.

In 2019 further information about the state of the theme park was announced, including Studio Ghibli's partnership with the Aichi Prefecture and the *Chunichi Shimbun* newspaper. The new plans included the addition of four other areas to the park based on the other movies by the studio, and a new opening date of late 2022 was given. Hayao Miyazaki, co-founder of Studio Ghibli, was said to be taking part in the planning of the park.

In February 2022, it was announced the park would open on 1 November 2022. At the time of its opening, three locations would be available: the "Ghibli's Grand Warehouse", "Hill of Youth", and "Dondoko Forest". The second phase of constructions, planned to be concluded late 2023, will add the "Valley of Witches" and "Mononoke Village". In June 2022, it was announced that the opening of the Valley of Witches area would be delayed to March 2024. It was also announced that there would be a free area next to Mononoke Village, which would house a playground based on *The Cat Returns* for anyone to play in without charge.



## ⑤ Themed areas

The park is based around five main themed areas, which are based around different Ghibli movies and are located within the grounds and buildings of Expo 2005. Those five areas are: Ghibli's Grand Warehouse, The Hill of Youth, Dondoko Forest, Mononoke Village and Valley of Witches.

## ⑦ Ghibli's Grand Warehouse

The heated pool from Expo 2005 (the site of Ghibli's Grand Warehouse) seen in 2015

Ghibli's Grand Warehouse replaced the heated swimming pool, which closed in 2018. The Air Destroyer Goliath, which is 6 meters long, and the ruined gardens from *Castle in the Sky* appear at the Grand Warehouse. You will also find Ghibli character exhibitions such as *Robot Soldier* and *Cat Bus*.

Inside is the Cinema Orion, which shows short films which you can only watch there and in the Ghibli Museum, which is located in Tokyo.



⑥

## ⑦ Hill of Youth

Hill of Youth is mainly based around the film *Howl's Moving Castle*, with an observation tower styled to the time period the film is set in. This area also features "World Emporium", which is the antique shop from *Whisper of the Heart*, as well as "Cat Bureau" from *The Cat Returns*, which will be recreated as a cat-sized building.

## ⑦ Dondoko Forest

Dondoko Forest will be the location of Satsuki and Mei's house (the Kusakabe's house) from *My Neighbor Totoro*, which was already built from Expo 2005. The house closed in November 2021 for renovation works, and will reopen with the rest of the park. The name of this area comes from the "Dondoko Odori" dance performed by Satsuki, Mei, and Totoro during a scene from the film. There will also be a wooden playground on the hill behind the house, which is mentioned on the park's website as "Dondoko-do' awaits you at the top of the forest hill that sits behind Satsuki and Mei's House".



⑧

## ⑦ Mononoke Village

Mononoke Village will represent, as its name suggests, *Princess Mononoke*. It is based on the film's settings such as Irontown and Emishi Village. It will showcase models of the many mystical creatures featured in the film. It is also going to house a village settlement, a traditional charcoal burner's hut, and an area where visitors can work iron forge bellows.

## ⑦ Valley of Witches

Valley of Witches takes inspiration from the film *Kiki's Delivery Service* and the wastelands in *Howl's Moving Castle*. This area will include restaurants and small amusement facilities, keeping to the theme of the park having no big rides or attractions. Furthermore, there will be a life-size Howl's Moving Castle, set to be four or five storeys high, also having the hat shop from the film. The valley is going to be the biggest area of the park, and is set to open in March 2024.

From Wikipedia, the free encyclopedia  
Ghibli Park - Wikipedia

⑨

# 和文作表競技

## 《競技説明》

- ① 競技時間は70分です。
- ② この説明が終わったら、【問題用紙】を配ります。合図があるまで開かないでください。
- ③ 責任者が「競技始め」と言ったら【問題用紙】を開いて、設問にしたがって、【ワープロ 和文作表作成例】と同じイメージになるように文書（A4両面1ページ）を作成してください。
- ④ 課題は、USBメモリへファイルを保存と印刷して提出となります。競技時間内に、必ずファイルを保存してください。ファイル名は、下記の設問1の名前でUSBに保存してください。
- ⑤ 競技時間が残り10分になったら、責任者が「10分前です」と言いますので、まだ課題を保存していないときは、保存してください。
- ⑥ 責任者が「競技終わり」と言いますので、入力をやめて、すぐにマウスやキーボードから手をはなしてください。
- ⑦ 競技終了後、「問題用紙」と「ワープロ 和文作表 作成例」（見本）は、そろえて机の上に置いて下さい。
- ⑧ USBメモリは、入れたままにしておいてください。
- ⑨ 競技時間後一人ずつプリンタで印刷しますので、指示があるまでお待ちください。
- ⑩ 休けいは、責任者が「休けいしてください」と言ってからです。作業が終了しても、そのまま席で待っていてください

- 設問 1
- ・新規文書を作成し、ファイルを保存する。
  - ・ファイル名は「R5 和文作表ゼッケン番号」とする。
- 設問 2
- ・以下の設問に従い、A4、縦長の1ページ（両面）に収まるように文書を作成する。
  - ・余白は上下左右 20mm 程度にする。
  - ・文字数を行数の指定は、「行数だけを指定」し、行数は「44 行」と段組みをする。
  - ・標準フォントは、MS 明朝体、10 ポイント、黒色にちなさい。
  - ・ヘッダーの上側（上から 10mm の位置）に左側に選手番号（全角）、中央側に氏名（全角）及び右側に現在日付けを入力する。
  - ・フッターの中央（下から 10mm の位置）に「ページ番号」を設定する。MS ゴシック体、10 ポイントにちなさい。
- 設問 3
1. ページ目メインタイトル以下の設定を行う。
    - ・フォント：MS ゴシック体、16 ポイント、太字、文字効果：赤系、文字輪郭：黒サブタイトルは、以下の設定を行う。
    - ・フォント：MS ゴシック体、11 ポイント、太字、青色
  2. ページ目、メインタイトルをワードアートで作成し、以下の設定を行う。
    - ・フォント：HGP 創英角ゴシック UB 系、32 ポイント、黄色、グラデーション 1/2：黄色 2/2：オレンジ色、方向：中央から、影：外側オフセット右下、2 つ目のタイトルをワードアートで作成し、以下の設定を行う。
    - ・フォント：HGP 創英角ゴシック UB 系、24 ポイント、青色、輪郭水色、影の色：茶色、
- 設問 4
- グラフ、表、罫線、文字位置、文字飾り等は、原稿どおりにする。
- 設問 5
1. 基本方針のスマートアートをリスト系用してデザイン、文字位置、文字飾り等は、原稿どおりにする。
    - ・項目のフォント：MS ゴシック体、10 ポイントと 12 ポイント太字、白色
    - ・施策の本文のフォント：MS ゴシック、8 ポイント
  2. 重点プロジェクトのスマートアートをフィルター用いてデザイン、文字位置、文字飾り等は、原稿どおりにする。
    - ・項目のフォント：MS ゴシック体、14 ポイント太字、メイン：MS ゴシック体、20 ポイント太字
- 問題 6
- ・重要プロジェクトの PDF ファイルを開き、表の部分のみ、画像を取り込み、3 ページ目に貼り、問題の大きさになるよう調整しなさい。
- ※ 以上の設問に指示されていない事柄については、設問を参考にし、同じイメージになるように作成しなさい。

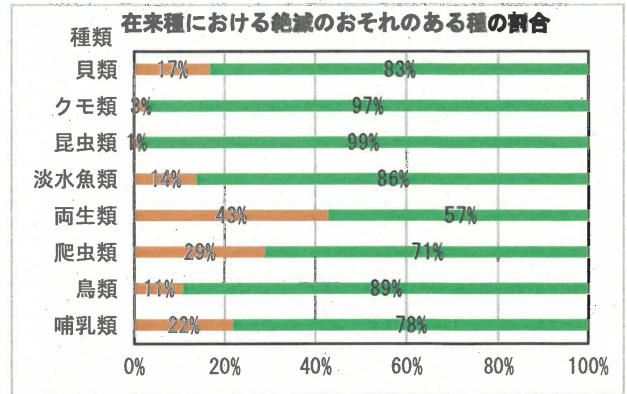
## あいち生物多様性

### (1) 生態系の多様性の現状と課題

- ◆ 本県は山地帯の奥山生態系、丘陵地の里地里山生態系、農地や都市のひろがる平野生態系、海辺の藻場や干潟といった里海・沿岸生態系、河川・水辺生態系、湿地湿原生態系といった多種多様な生態系が存在する。
- ◆ 山林の利用の減少や耕作放棄地の増加、狩猟者の減少などの影響により、ニホンジカやイノシシなどの野生獣の個体数が増加しており、森林や農地への被害や林床植生の食害が深刻になっている。
- ◆ 市街化区域内の緑地は 2004 年の 20.1%から 2016 年の 13%と、12 年間に約 7 ポイント、同様に都市計画区域内では 55.3%から 52%と約 3%減少している。農地は、住宅や工場などへの転用が続いており、全体として減少傾向にある。また今後は、1992 年の改正生産緑地法により指定された生産緑地が、30 年の営農義務を経過することにより、大規模な転用が生じるのではないかと懸念される。
- ◆ 県内の海岸には、流木やペットボトルをはじめとしたプラスチック類などの海洋ごみが流れ着いており、鳥や魚類などが餌と間違えて食べる、体に巻き付いて身動きがとれなくなるなど、生物の生息に影響を与えている。海岸の環境保全の観点からも、市町村やボランティアによるごみの回収、清掃活動が行われている。

### (2) 種遺伝子の多様性

- ◆ レッドリストあいち 2020 では、県内で確認されている外来生物を含む野生動植物種は約 16,940 種であり、この中の在来種 15,250 種のうち、893 種 (5.9%) が絶滅のおそれのある種となっています。絶滅のおそれのある種の割合は、動物が 364 種で 3.0%、植物が 529 種で 17.3%を占めている。また、次図のとおり、動物の中では両生類が 43%、爬虫類が 29%と、絶滅リスクが高い種の割合が特に大きくなっている。
- ◆ 指定希少野生動植物種に対する捕獲等は、自然環境保全条例により、原則禁止されている。また、学術研究や生息生育状況調査などの目的で捕獲、採取などを行う場合は、知事の許可を受ける必要がある。



### (3) 経済活動や暮らしと生物多様性

- ◆ 人口減少や少子高齢化の影響は、本県の生物多様性保全の取組にも大きな影響を与える。自然環境を保全し持続可能な形で将来世代に伝えるために、多様な担い手の参画、連携が必要とされる。
- ◆ 本県の水田面積は約 42,500ha であり、県全体面積の 8.2%を占めている。水田は米の生産地であるとともに人為的なかく乱を受ける人工の湿地として、多様な生きものすみかとなっている。また、洪水調整を担う貯水池としての機能、ヒートアイランド現象を緩和させる効果などもある。
- ◆ 生物多様性がもたらしてくれる遺伝資源は、医薬品の開発や品種改良等に役立つ。花壇でよくみかけるニチニチソウからビンカアルカロイド、タイヘイヨウイチイの樹皮からタキソールといった抗がん剤が発見されているように、抗がん剤の 42%が自然由来のもので、更に半自然由来のものが 34%もあると言われている。
- ◆ グリーンインフラとは、自然環境が有する様々な機能を、社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方である。具体的には、多自然川づくり、遊水地、水循環、雨水流出抑制のための貯留浸透、都市緑化、緑の防波堤などがある。これらは生態系サービスの「調整サービス」を利用することになり、防災や気候変動への適応などにおいて、生態系の有する復元力や回復力 (レジリエンス) を発揮させることにもつながる。

### (4) 生物多様性戦略 2020 の取組状況

- ◆ 多様な主体のコラボレーション (協働) の場として、県内 9 地域で「生態系ネットワーク協議会」を設立した。
- ◆ 2013 年度から 2019 年度までに届出があった開発案件のうち、県が 218 件で「あいちミティゲーション」を推奨し、160 件で在来種の植樹などを事業に反映した。

# あいち生物多様性の行動計画

あいち方式2030の重点プロジェクトを着実に進めていくことに加え、「まもる」「つなげる」「つかう」「ひろめる」という4つの基本方針に基づいて生物多様性に関する個別施策を総合的に展開する。

基本方針1  
豊かな生態系を  
まもる

- ・生息生育地保全：生態系の基盤となる土地利用を守る
- ・生態系の保全：生態系の特性に応じた保全と再生を進める。
- ・侵略的外来種対策：外来生物の定着防止と効果的な防除を推進する。
- ・野生生物保護：野生生物の絶滅を回避する。

基本方針2  
生息生育空間を  
つなげる

- ・生態系ネットワーク：生物多様性の核となる地域をつなげる。
- ・あいちミティゲーション：開発により失われる自然を極力減らす。
- ・公共事業の環境配慮：公共事業における生物多様性の配慮を主流化する。

基本方針3  
生きものの恵みを  
つかう

- ・農林水産業：生物多様性に配慮した持続可能な農林水産業を推進する。
- ・鳥獣保護管理：野生鳥獣と人々の暮らしや地域産業との共存を図る。
- ・企業活動：「つくる責任、つかう責任」を定着させる。
- ・地域循環：自然の恵みや地域資源を通じて、人やモノが循環する地域づくりを進める。
- ・地域変動への対応：気候変動の緩和策と適応策を実行する。
- ・自然体験の推進：豊かな生物多様性を体感する

基本方針4  
人と自然との  
共生を  
ひろめる

- ・普及啓発・人材育成：全ての人々があいちの生物多様性の素晴らしさを認識する。
- ・調査研究：地域の自然環境情報をとりまとめ、活用する。
- ・多主体連携：多様な主体が連携し、生物多様性保全に取り組む。
- ・施策・計画：あらゆる分野の施策や計画に生物多様性を考慮する。
- ・広域連携：全国・世界の自治体と連携する。

## あいち方式2030

全ての主体がコラボレーション（協働）により生物多様性の保全を進める



重点プロジェクト (A~J)

今後 10 年間で特に注力して実施する事業を「重点プロジェクト」として定め、本県の生物多様性に関わるあらゆる主体と連携して推進していく。

プロジェクト	目 標	プロジェクトの概要
プロジェクトA： 湿地・里山ネットワ ーク	【目標】 湿地の保全活動 ・保全のための植生管理が行われている湿 地：新たに 10 箇所	・湿地・里山データベースの作成 ・保全活動コーディネート ・湿地・里山保全計画
プロジェクトB： 希少な動植物の保全	【目標】 県内の野生絶滅種の新規発生を 「ゼロ」にする ・指定希少野生動植物種の指定 18 種 → 25 種 ・県と生息域外保全協定を締結する施設 2 施設 → 4 施設	・レッドリストの定期的な見直し ・指定希少野生動植物種の指定 ・生息地の域外保全の実施
プロジェクトC： 外来生物対策の強化	【目標】 初期確認段階の特定外来生物の定 着防止 ・特定外来生物（7 種）（ヒアリはじめ外 来アリ 4 種、クビアカツヤカミキリ、カ ミツキガメ、ヒガタアシ）	・特定外来生物の新規の侵入阻止、 既侵入外来生物対策の強化 ・多様な主体による既侵入外来生 物の影響抑制
プロジェクトD： 地域の環境保全活動 の更なる活性化	【目標】 ・生態系ネットワーク協議会 参加団体数：284 団体→350 団体 ・市町村の生物多様性施策推進 戦略策定数：10 市町村→40 市町村	・生態系ネットワーク協議会の機 能強化 ・ユース活動の展開 ・市町村の生物多様性保全活動の 活性化
プロジェクトE： 都市の自然の価値再 発見	【目標】 ・「生物多様性」の普及 言葉の意味の認識率：51.2% → 75%	・都市部での啓発の促進 ・身近な自然との触れあい促進 ・都市空間の緑の質の改善
プロジェクトF： 鳥獣の保護・管理の 推進	【目標】ニホンジカの生息頭数の適正管理 ・早期に適正水準（約 8,500 頭）まで削減 し、維持	・ニホンジカの捕獲の強化 ・イノシシの捕獲の強化 ・ジビエの活用促進
プロジェクトG： 事業者の保全活動の 推進	【目標】 ・保全活動団体と事業者のマッチング 成立件数：40 件 ・開発事業における環境配慮工法等 反映率 80%/年	・あいちミティゲーションの深化 ・事業者と市民団体との生物多様 性マッチングの実施 ・生物多様性に配慮した製品に対 する理解の促進
プロジェクトH： あいちの自然体感の 推進	【目標】茶臼山及び伊良湖休暇村の利用促 進 利用者数：59 万人/年→60 万人/年	・自然公園施設の質の向上 ・県環境学習施設「もりの学舎」 における自然体感 ・東三河ジオパーク構想との連携
プロジェクトI： 国際連携の推進	【目標】 国際情報の県内への報告 毎年実施	・国際的な自治体コミュニティへ の参加と国際情報の県内への伝 達 ・海外の自治体との交流
プロジェクトJ： 「あいち方式 2030」 推進プラットフォームの構築	【目標】 生物多様性サポーターの拡大 登録者数：5,000 人	・県民サポーター制度 ・自然史情報データベースの作成 と提供、見える化 ・生物多様性保全活動団体プラッ トフォームの構築